

# こやのせだより

自分・状況を知る (自己認識)  
決める・行動する (自己決定)  
振り返る・伝える (自己創出)

令和3年4月7日  
北九州市立木屋瀬小学校  
校長 瀧上 正彦

## 令和3年度、木屋瀬小学校スタート！

令和3年度は、今後も脅威が続くウイルスに負けず、成長を続けてほしいと願います。そこで、本年度は、「自ら困難に立ち向かい、今できることを見出し、自らすることを決めて、行動できる子供の育成」を目指します。そして、子供たちと取り組むスローガンは、

“新しい自分を 創り出そう”です。

これは、昨年度の6年生から学びました。コロナ禍で何もできないと思われた中、下級生のために、スキマ時間を使って掃除や靴そろえなどに取り組みました。この行動は、全校に感動と勇気を与えました。日常の一瞬一瞬にこそホンモノは輝くのだと教えてくれました。

今年もコロナの脅威は続きます。集団で行う行事は難しいでしょう。私たちは、日常の中で、子供たちが自分と向き合い、今自分ができることを見出し、自分で決めて行動することを目指します。

そこで、3つの自己に着眼した学年活動を重視します。

①自分・状況を知る (自己認識) ②決める・行動する (自己決定) ③振り返る・伝える (自己創出)

このように、子供たちが、自分という壁を見つめ直し、自分の力で乗り越え、成長した自分を自覚できるよう全力を注ぎます。(詳しくは木屋瀬小ホームページ 学校経営方針をご覧ください：<http://www.kita9.ed.jp/koyanose-e/>)

例えば、今年度は学校行事の大幅な見直しを行います。運動会も学習発表会も、出来上りを「見せる」結果から、子供主体で「創る」過程を重視する体制にシフトします。どのような運動会になるのか、どのような学習発表会になるのか、私どもも全く分かりません。内容等について教師から提案することはあっても、考え、決め、行動するのは子供たちです。そのときに大切なのは、子供が決めるときです。決定が「誰かのために」「みんなが楽しめるように」という利他の精神で行えるよう、子供たちに働きかけていきたいと思えます。

今年も職員一同、子供たちのために全力で当たります。保護者の皆様、地域の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い致します。

### ◇転出職員&転入職員紹介

修了式では、悲しいお別れをしましたが、新しいスタッフを迎え、新たな気持ちでスタートします。

**転出職員**

☆お世話になりました。

**転入職員**

☆よろしくお願ひします。

#### ★6年生、すばらしい最上級生ぶり★

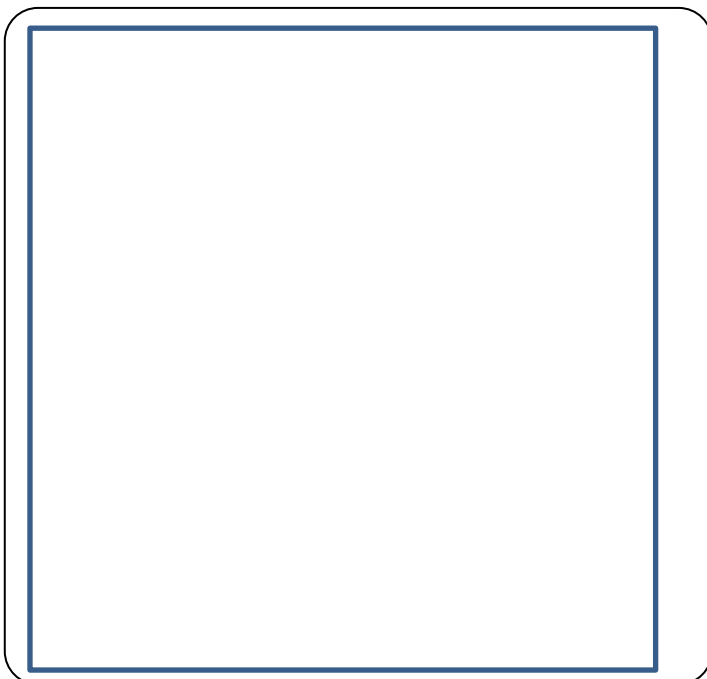
始業式では、6年生が下級生の手本となる態度で始業式に臨みました。「木屋瀬小学校のよさ」は、最上級生が、下級生に手本を示すことで育まれています。

新しい最上級生となった新6年生は、卒業した6年生の伝統をしっかり引き継ぎ、さらにすばらしい最上級生になろうと頑張っています。

今年は、子供主体で、自ら新しい自分や学校を創り出すことにチャレンジします。6年生を中心として、どんな自己決定や行動をするのか今から楽しみです。

保護者の皆様のご理解ご支援をお願いします。

### ◇今年度のチーム木屋瀬スタッフ配置を紹介します



★今年は市の少人数方針で全学年が35人学級となりました。そのため、1～5年生迄が3学級となりました。嬉しいことですが4年2組担任配置がまだありません。決まるまでは主幹教諭高橋とフリーの亀井が務めます。ご心配をおかけしますがよろしくお願い致します。

開局90周年北九州スペシャル「コロナに負けないぞ～木屋瀬小学校の1年」NHK北九州が木屋瀬小を番組にしてくれました。放送は4月10日(土)7:35～8:00、4月25日(日)17:00～福岡県内放送、NHKプラスで1週間オンデマンド配信もされるそうです。(〇ω〇)

## ◇4月の行事予定

日	曜	行事名等
7	水	始業式 教科書配布
8	木	
9	金	中学校入学式
10	土	
11	日	
12	月	木屋瀬小学校 入学式
13	火	給食開始 委員会組織づくり 身体測定6年
14	水	身体測定5年
15	木	身体測定4年
16	金	身体測定3年
17	土	
18	日	
19	月	身体測定2年
20	火	1年生給食開始 視力検査6年
21	水	交通安全教室 1年2・3校時 視力検査5年
22	木	視力検査4年
23	金	視力検査3年 家庭訪問①
24	土	
25	日	
26	月	視力検査2年 家庭訪問②
27	火	発育測定1年 家庭訪問③
28	水	視力検査1年 家庭訪問④
29	木	昭和の日
30	金	なのはな発育・視力・聴力検査 家庭訪問⑤

## シリーズ 子育て応援 ～校長の独り言～

### 「子どもを叱る前に考えてほしいこと」

「子どもの気持ちがわかる本」吉岡たすくより

#### ★「なんで早くしないといけないの」

「早くしなさい」「ぐずぐずしないの」この二つの言葉が、口ぐせになっているお母さんが、少なくないように思います。

実際、子どもたちに、「お母さんに言われることで、一番多い言葉は、どんな言葉かな？」と、たずねてみますと、早く。ということばです」と、多くの子どもが答えるのです。

早く。が口ぐせになっているのは、お母さんだけではありません。学校では先生が子どもに、「早く並びなさい」など、早く。を連発しています。

なぜ大人は“早く、早く”と子どもをせかすのでしょうか。あるとき、ひとりの子どもが手紙をくれました。その手紙には、次のように書かれていました。

『先生へ。ぼくのお母さん は、一日中、“早く、早く”といひます。だから、ぼくはとてもいそがしいのです。なんで、あんなに“早く”というのか、ぼくにはわかりません。先生、なんで早くしないといけないのですか。教えて下さい』

この手紙をもらって、私は返事に困ったのです。質問に対して、満足できるような答えが書けないのです。

よく考えれば、早くしなければいけない理由など本当は何もないのです。でも、なぜか世の中では早いことが良いことになっています。それで、何となく子どもにも早いことが良いことで、ぐずはいけないことだと教えているだけなのです。

#### ★「いい子」の枠の中に入れようとしていませんか？

この事をもう少し考えてみますと、日本では、学校でも家庭でも、枠をつくって、その枠の中に子どもを入れようとしています。そして、その枠の中に、きちんと入っていると、先生も、お母さんも機嫌がいいのです。そして、そういう子どもを「いい子」だと言うわけです。ところが、子どもの中には、枠の中に入らない子どもや、枠からはみだしてしまう子どもがいるのです。

そういう子どもに対して、大人は、「この子はいうことを聞かない」「この子はだめだ、悪い子だ」と、決めつけてしまっているのです。

けれども、よく考えてみますと、枠にはまらない子どもというのは、いけない子どもなのではなく、むしろ自分というものをしっかりもっている子どもだといえるのです。

つまり、枠にはまらなくても、それは劣っているということでは決してなく、ただ性質が違うというだけなのです。

それなのに、お母さんが「だめだ、だめだ」と、言っていると、子どもは劣等感を持ってしまって、自分の個性を豊かに育てていくことができなくなってしまうのです。

ですから、子どもを一つの枠にはめることだけは、絶対にやめてほしいのです。

#### ★ほめる・叱るの順番

「では、しつけはどうしたら いいんですか？ 枠にはめないのはいいけれども、自分勝手な子どもに育ってしまったらどうするんですか？」とおたずねになるかもしれません。

そのとき、考えてほしいのは、「自由」と「放任」は違うということなのです。枠にはめないといても、子どもがルールを破ったときなどは、けじめを教える必要はあります。当然、子どもを叱ることになるでしょう。

ただ、そのときに、ぜひ気をつけてほしいことがあるのです。それは、「叱る前にほめる」ということです。

お母さんは、頭から叱るのではなく、まずほめてあげるのです。叱りたいことがあっても、まずその子の良い点をほめてあげて、それから「でもね」と一つ注意をすれば、子どもも素直に受け入れられるはずです。「ほめる」「叱る」の順番の違いだけで、叱られたときの子どもの気持ちに大きな違いがでる気がします。

#### ★完璧を求めないで

最後に、お母さんががたは、自分の子どもに対して、“完璧”を求めないでほしいのです。

そのお母さんの気持ちはよくわかるのです。でも、完璧を求めるあまり、子どもに対して、つい言いすぎてしまわれるのではないのでしょうか。それがために、お母さんが神経質になってしまって、イライラしていらっしやるように思えます。

お母さんはもう少しゆったりとした気持ちをもって、子どもを見ていられることが大事だと思うのです。

☛お母さんお父さん、そして先生も毎日大変です。子どものために一生懸命しているのに、子どもはちっとも言うことを聞かない。「何度言ったら分かるの！」ってイライラします。

お母さんやお父さんのお気持ちはよく分かります。親としては、何でもきちんとできる子にしたいと思ってしまふ。その焦りがお母さんやお父さんを、早く。早く。と追い立ててしまうのです。

これでは親も子も不幸です。もっとゆったりと、笑いながら、楽しく過ごせるひとときを共有してほしいと思います。

もちろん、気づかせてあげることが悪くはないんです。親の熱意が無駄にはならない。だけど、たまには、吉岡先生の言葉を思い出して、くつろいでください。親も少し、失敗して笑ったほうがよい。肩の力を抜いて、親子で楽しむ幼少時代の幸せなひとときを楽しんでください。(測上)